

『#身代わりの女 (The Pact) 』（シャロン・ボルトン著）を読んできた。
著者はデビュー作『三つの秘文字』が MWA メアリ・ヒギンズ・クラーク賞候補
となり高い評価を得て（ゴールド・ダガーの候補）、2 作目の『毒の目覚め』
で同賞を受賞、さらに 3 作目の『緋の収穫祭』とあわせて 3 年連続ノミネート
の快挙を成し遂げた。

若者の取り返しのつかない過ちをテーマにした作品である。舞台は英国オックスフォード。

卒業を間近に控えたパブリック・スクールの優等生 6 人が開放感と飲酒も手伝って肝試しとして代わるがわる高速自動車道で逆走する（計 6 回）。その結果、対向車との事故を誘発し、母娘 3 人の命を奪ってしまう。警察や救急隊に連絡せず、対策を練った結果、残りの 5 人と念書を交わして、M が身代わりとなって警察に出頭する（なぜ M は身代わりになったのか、という謎が残るが・・・）。状況から M の単独犯としては疑問点がいくつか指摘されたが、結局 20 年の禁固刑となる。この間、残りの 5 人は一人として面会もせず、手紙も書かなかった。

20 年後（こんなに長く拘束されたことには 5 人のうちの一人の悪意が働いていた）、一人で罪を被り刑期を務めあげた M が、国会議員、辣腕弁護士、母校の学園長、会社社長等いまや成功を収めている 5 人の前に姿を現す。彼らと交わした“約束 (The pact)”を果たさせるために、M がそれぞれに過酷な条件を突きつける。

その結果、条件を飲めない 5 人は、保身のための案を練る。そして間違った選択の果てに惨劇が展開されてゆく。600 ページ超もあっという間に読み終えてしまう。

復讐劇が印象的な日本の作家の作品

- ・ 湊かなえ『告白』: 教師が娘を殺された復讐を冷静に遂行する心理サスペンス
- ・ 東野圭吾『さまよう刃』: 娘を殺された父親の復讐とその倫理を問う重厚な物語
- ・ 薬丸岳『虚夢』: 少年犯罪と復讐をテーマにした社会派ミステリー